

## 小鳥

伊喜見隆吉

せまらぎと芝草の上で木の間が呼吸づき、

小鳥の歌は静かな森の空気を掃除する。小鳥はすべての生物の中で一番幸福な子供ださうだ。彼女の心は地上の憂苦や苦惱からそつと抜け出した歡喜のエキスで、豊富な空想の源泉で、あるひはあらゆる愉快な思想の翼であつた。

小鳥は楽しい春の日の蒼空の一部で、その歌は春風の一つの原子であつた。

この俺が一羽の小鳥であつたなら——と私はつと立ち止つて考へた。さうしたら私はこの堀割の向ふ側まで飛べように